

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492700063		
法人名	桜木記念病院		
事業所名	グループホーム桜木さん・第2明和		
所在地	三重県多気郡明和町大字佐田沼		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町提出日	令和4年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosvoCd=2492700063-00&ServiceCd=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 11 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中、利用者の皆様が安心して生活して頂けることを第一に考え、その中で楽しみを持っていただき、ご自分の価値、役割を感じ取って生活していただける様に利用者の皆様と向き合っていきたい。また母体が桜木岐南病院であることから、医師はもちろん、多職種としっかり連携を取り、利用者の皆様、家族様のニーズにしっかりこたえられる体制を構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『尊び心から尽くし介護させていただく』を法人理念に掲げ、理事長自らがほとんど休むことなく毎日事業所を訪れ、利用者に声掛けし触れて確認している。母体との万全な医療連携で家族・利用者からの信頼は厚い。職員は日常の一つ一つにも細やかな配慮をし、常に利用者本位で考え支援している。また、開設11年目を迎える地域での信頼も厚く交流は盛んであったが、ここ2年間のコロナ禍でこれまでの活動はほぼ中断され、管理者をはじめスタッフ一同頭を抱えてきた。そこでコロナを呼び込まないように外部との接触を一切断ち、事業所内のできることをして利用者を楽しませようといういろいろなイベントを開催した。中でも室内での運動会のパン食い競争や菜園でのサツマイモ掘りでは泥だらけになりながら利用者の笑顔がはじけたという。リビングに掲げた『一歩一歩前へ前へ コロナに負けるな 全集中で前へ進むぞ』というスローガンから、事業所の常に前向きな気持ちを忘れず利用者を支援していこうとする姿勢が伺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(尊び心から尽くし介護させて頂く)の法人理念をしっかりと持ち(一期一会)を行動理念にし介護に当たっている。	母体の介護事業立ち上げ時に理事長が考案した法人理念と行動理念を職員一同が徹底して実践している。毎朝の申し送り時に唱和し、新しく職員を迎える時にはオリエンテーションで共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、施設行事への招待、自治会活動への参加、また保育園、小学校、中学校とも交流している。	コロナ禍で地域との交流はほとんどできず、地域清掃のみ管理者が参加した。また、例年ならば隣接する保育園の運動会に招待を受けていたが、距離を置いて駐車場から見守り応援するに止まった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れ、施設体験、地域住民の見学会を行い、認知症への理解、支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、町担当者、利用者家族、地域包括支援センター、消防署、近隣保育園、自治会、民生委員に出席を依頼して、話し合い、意見交換を行っている。※コロナ禍の為開催出来ていない。	今年度はコロナ禍のため、明和町からの通達と本部の方針で運営推進会議は開催できなかった。事業所内で身体拘束廃止に向けての会議等を開会した際には、事業報告書を町と包括支援センターに提出した。	今後コロナ感染症の動向を見ながら以前の地域との関係を回復し、これまで以上に事業所への関心と信頼を得られるよう働きかけをし、事業所運営に活かされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域連携推進会議、運営推進会議、研修等を通じて、町、地域包括支援センター、他事業所と情報提供やコミュニケーションに努めている。	できる限り外部との接触を断ち、明和町役場との連絡はほぼ電話で済ませた。利用者の介護認定更新申請を家族に代わって行い、調査は玄関先で距離を置いて受けるなど感染予防に徹底しながら連携をとった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準を理解し市町への連絡、家族への説明を十分に行い、文書にて同意書を得ている。身体拘束適正化委員会を年4回開催し、拘束に対する意識を高めるよう努めている。	身体拘束適正化委員会は3か月毎に行い、職員は申し送りで議事録に目を通し共有している。外部研修には管理者やケアマネージャーが参加して職員に伝達講習をし、レポート提出で意見交換を行った。家族が拘束を希望した場合には職員全員で検討し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修を充実させ、職員の虐待に対する意識向上を図り、徹底的な弱体防止に努めている。 ※コロナ禍の為外部研修参加ほぼなし		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町、社会福祉協議会と連携して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が重要事項を説明し、同意のうえで契約締結としている。又重症化した時の指針、看取りに関しては、家族と十分に話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の情報をケース記録、業務日誌で共有し、家族からの意見、要望、苦情等があった場合、運営者、管理者に報告し、問題解決、運営改善に役立てている。	コロナ禍で家族の面会を禁止していたため、それについての苦情が多かったが、10月からリビングの窓ガラス越しに面会ができるようにしたところ喜ばれた。重度化した利用者に食事介助をする様子も居室の窓ガラス越しに見てもらい感謝された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、リーダー会議、フロア会議、個人面談を開き、問題点の提起、改善に反映させている。※コロナ禍の為、時間短縮、少人数で開催	コロナ禍で職員全員が集まったの会議はできなかったが、常に職員が意見を出しやすい環境を整え、運営面や介助に関する意見を吸い上げて検討して支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもって就業できる職場環境、条件の整備に努めている。また職員と十分話し合得る時間を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の生涯学習ポイント制度により、研修を受ける事を推進し、それを評価の対象としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連携推進会議、勉強会等に積極的に参加できるように努めている。※コロナ禍の為開催減少		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に出来る限り本人の不安、希望、要望を聞きそれを受け止めるよう務める。又入所初期は本人に寄り添い信頼関係構築に務める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設見学、面談時に家族の希望要望をしっかりと聞き話し合いを重ね、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望要望から、まず必要となるサービスを見極める。又前施設、担当ケアマネージャーと連携して必要なサービスを提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護する側という意識ではなく、利用者と助け合って生活しているという意識で支援に当たるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族はチームと考え、密に話し合い利用者の状況を共有し協力して支援に当たるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者、家族の希望、意向に考慮して馴染みの方が訪れやすいように支援し可能な限り馴染みの場所へ行けるように支援している。	コロナ禍で外部との接触を断っているため、例年通りの外出やイベントはできなかった。せめて車の中から馴染みの風景を見てもらおうと、漁港へドライブして海を見たり花見をした。散髪は有資格者や得意な職員で対応し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係を注視してストレス無く落ち着いた共同生活がスムーズにできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば随時対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、面会時に本人家族の意向や要望を聞き取り、話し合いを重ね期待に沿った支援が出来るように努める。又気づきノートやカンファレンスを通じて生活の中から本人のニーズを見出し把握、検討している。	約3割の利用者が思いや意向を表出できない状態であるが、丁寧に向き合って本人のニーズを把握し、申し送りや記録で共有して支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の暮らし、趣味、思い出、過去のサービスを聞き取り、今後の施設の生活支援に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に寄り添い、感じ、発見した事を職員間で話し合い、共有、利用者の現状を把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の希望要望、現状を担当職員中心にマニュアルを作成し、毎週評価し月一度ケアマネ、管理者、職員で検討し、家族の意見を交えて良いプランが出来るように努めている。	毎月カンファレンスの中で、担当者や職員の意見を聴いてモニタリング・評価を行い、利用者の視点に立ち家族の意向を取り入れて現状に即した介護計画となるようにしている。入退院の際にもカンファレンスを実施し、きめ細かい計画の下で支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別のマニュアルを作成し、新しい発見や変化など職員間で相談検討しプラン見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	桜木記念病院と連携し他職種により生活支援、健康管理、リハビリ等利用者や家族のニーズに合わせたサービスが提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、自治体、社協からのボランティアの紹介や保育園の慰問、中学生の職場体験等を通じて精神的満足感、楽しみ、喜びを感じて頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に入所後も診察していただけるよう主治医、家族と相談し、利用者、家族の希望に沿った医療を提供できるように支援している。	入居時に以前からのかかりつけ医を継続できることも伝えるが、自然に母体の病院長が主治医となっている。院長は月2回の訪問診療と、殆ど毎日事業所に立ち寄り利用者を観察し、信頼されている。母体の病院には殆どの専門科があるため往診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来所しケアマネ、介護職員と連携して利用者の様子や変化、健康状態を把握し健康管理や緊急時の対応がスムーズに取れるように体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの提供と生活情報の伝達、入院中は医師や看護師、理学療法士等から病状や変化、対応を聞き、対応を聞き退院後の施設生活がスムーズに行えるように病院関係者と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を確認、記録し、桜木記念病院と連携して最良の支援をする。看取りの場合も指針を設け、他職種が連携して家族の以降に沿った支援が出来る様に体制を整えている。	入居時に看取りについての説明をするが、主に重度化した際に本人・家族の意向に沿った方向性を決めている。看取り体制は多職種との連携で万全であるが、管理者は職員のメンタルにも配慮しながら無理のない体制で看取りに取り組んでいる。看取った後には振り返りをして実践に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院や消防の指導による応急処置、緊急時対応訓練を定期的実施している。又緊急時対応マニュアルを作成し、職員が閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火防災訓練を実施している。又防災訓練に関わる研修会に積極的に参加し、町や他施設との情報交換、連携体制構築に努めている。	今年度の防災避難訓練は11月末と3月に予定している。明和町がハザードマップを作成し、水害・津波に向けての対応を施設ごとに計画を立てて指導してくれるので有難い。発動機や投光器、ガスコンロ・非常食などの備蓄の準備はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを考慮した声掛け、人格を尊重し愛情を持った声掛け対応を心掛けている。	利用者は一日の殆どの時間をリビングで過ごしているが、一人ひとりの好きなことややりたい事を優先し、みんなで何かをする時にも無理強いせず意思を尊重するようにしている。利用者同士の関わりにも配慮し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や表情から希望要望を表せやすいように、又自己決定が出来るように利用者には働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを中心に希望要望を尊重した支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は基本的にご自分で選んで頂き、お化粧品も自由にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り利用者の希望を取り入れたメニューも取り入れイベント食も楽しめるように工夫している。又野菜の収穫から調理、後片付けまで職員と利用者が協力し合っている。	食材は業者に発注して職員が調理している。野菜は菜園で栽培した物や家族からの差し入れを使い、季節の旬の味を大切にしている。玉ねぎの皮むきなどの下ごしらえに参加したりおやつ作りが楽しみである。コロナ禍で内部での活動を充実させて調理も皆で活発に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、管理栄養士、言語聴覚士と連携し利用者個人に合わせた食事形態、調理方法を行っている。又食事摂取量や水分摂取量を毎食ごとに表記し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は歯科医師により口腔ケア指導を受け各利用者に合った口腔ケアを毎食後に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の負担にならないよう、さり気ない声掛けや見守り介護を心掛けている。24時間シートにより排泄パターンの把握、リズムの観察、記録をし職員間で把握している。	約半数の利用者が自発的にトイレで排泄を済ませているが、見守りを忘れずにチェックをして排泄パターン表に記録している。排便を促すために水分の摂取には特に気を配り、毎日のバナナジュースは欠かさず続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、適度な運動を心掛けている。医師の指示によりマッサージ、服薬により便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望、気分、体調を考慮して支援している。又入浴剤や音楽、季節の湯等を使って楽しくリラックスした入浴が出来る様に支援している。	週2回を目安に午後2時頃から入浴支援をしている。一人ひとりお湯を入れ替え、お好みの音楽をかけて入浴が楽しみになるよう工夫しており、季節の柚子湯や菖蒲湯も楽しみの一つである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個人に合った寝具を考え、出来るだけご自宅での環境に近づけるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を作り全職員が確認できるようにしている。又申し送りノートや日誌、朝の申し送りで確認共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での経験を活かした家事や畑作業、花づくり等から役割を持っていただき、生活の張りや糧、楽しみに繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、ドライブ等家族の協力を得ながら支援している。桜の花見など季節の花見に出かけている。※コロナ禍の為季節の花見少人数で実施	コロナ禍で例年通りの外出支援はできなかったが、季節の花見や馴染みの場所へは少人数でドライブし車窓から楽しんだ。気候のいい日には事業所周辺を散歩したり飼育しているウサギを見たりベンチに腰かけ風景を見ながら日光浴をしている。また、菜園のサツマイモや玉葱掘りを楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者にはご自分で財布を管理されている方も見え買い物には同行し希望の物を購入してもらっている。※コロナ禍の為、買い物管理者ケアマネが代行		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を受ける。かける支援は随時行っている。又手紙の投函も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の中でリラックスした生活が出来るよう、又自由に生活して頂けるような環境つづりに努めている。季節の花を飾ったり作品を飾ったりもしながら家庭的な雰囲気が楽しめるように工夫している。	リビングは広々としていて、座席の他にもゆったりとくつろげるソファがあり、利用者は一日の大半をそこで過ごしている。感染症予防のための高性能の加湿・空気清浄機を設置し利用者が常に快適に過ごせるような配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個人のプライバシーを尊重し、居室で過ごして頂いたりフロアで過ごして頂いたり個人のペースで自由に過ごして頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は個人、家族と相談し自宅で使われ手馴染みの家具や生活用品を持ち込んで頂き出来るだけ自宅同様に安心して生活出来るようにサポートしている。	居室にはベッド・エアコン・クローゼットが設備され、自宅から使い慣れた机・椅子・TVなどを持ち込んでそれぞれ個性のあるしつらえとなっている。空気が乾燥する時期には夜に濡れタオルをかける工夫もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存機能を生かし必要以上の介助は控え出来る事は自分でして頂く。施設内はバリアフリーでフロア、浴室、トイレ、廊下には手すりを設置し安全確保に努めている。		